

# 小 児 感 染 症

※ 症状が異なることがあるので医師の指示に従ってください。

病名	症状	病原体	潜伏期間	登園のめやす	予防方法・その他
麻疹	くしゃみ、鼻水、嚔下痛等とともに発熱し、頬の内側に白い斑点(コプリック斑)がみられる。発疹は、耳の後ろから顔、体幹、四肢へ広がる。	麻疹ウイルス	7～18日	発疹に伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで。	予防接種(定期)
風しん	発熱を伴った発疹(バラ色)で全身に出現する。頸部、耳の後ろのリンパ節が腫れ、圧痛を伴う。	風しんウイルス	14～23日	発疹が消失するまで。	予防接種(定期)
水痘	発疹は、体幹、頭部から顔面に好発する。発熱しない。こともある。発疹は、水泡、膿泡、痂皮の順に変化する。	水痘・帯状疱疹ウイルス	10～21日 (14日程度が多い)	全ての発疹がかさぶたになるまで。	予防接種(定期)
流行性耳下腺炎	耳下腺の腫れが主症状で顎下腺なども腫れる。一側または両側が腫れる。腫れは2～3日が一番ひどく、長くても10日間位で消失する。	ムンプスウイルス	12～25日	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。	予防接種(任意) 合併症として無菌性髄膜炎が多いため、難聴になることもある。
インフルエンザ	悪寒、頭痛を初期症状として発熱を伴う。全身倦怠感、腰痛、筋肉痛など全身を強く侵される。のどの痛み、鼻汁などの症状がでてくる。	インフルエンザウイルス A型・B型	1～4日	発症した翌日から5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで。	予防接種(任意)
咽頭結膜熱	発熱、結膜炎、咽頭炎を主症状とする。プールを介して流行することが多いのでプール熱とも云われる。	アデノウイルス	2～14日	主要症状が消失した後2日を経過するまで。	手洗い・うがい、プール前後のシャワーの励行
百日咳	吹笛用吸気で終わる特有な連続性・発作性の咳(レプリーゼ)が長期間にわたって続く。	百日咳菌	5～21日	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで。	予防接種(定期)
結核	全身の感染症。一般に肺に病変をおこすことが多い。	結核菌	発病時期は様々 特に6か月以内に多い	医師の診断により、感染のおそれがないと認められるまで。	予防接種(定期)
腸管出血性大腸菌感染症	症状のないものから下痢(水様便)、腹痛、血便が様々な程度で現れる。	腸管出血性大腸菌 (ベロ毒素産生性大腸菌)	1～9日	感染のおそれがないと認められるまで。	手洗いの励行、消毒、食品の加熱及びよく洗う 二次感染に注意が必要
流行性角結膜炎	角膜の充血、眼瞼の腫れ、異物感があり目ヤニがでる。耳の前のリンパが腫れ、発熱を伴うこともある。	アデノウイルス	2～14日	眼の症状が軽減してからも感染力が残る場合があり、医師において感染のおそれがないと認められるまで。	手洗いの励行、タオルの共用をしない
急性出血性結膜炎	急性濾胞性結膜炎で眼瞼腫脹、異物感、眼脂、結膜下腫脹がある。眼の結膜や白目の部分にも出血をおこす。	エンテロウイルス	1～3日	眼の症状が軽減してからも感染力が残る場合があり、医師において感染のおそれがないと認められるまで。	手洗いの励行、タオルの共用をしない
溶連菌感染症	発熱、のどの発赤・腫れ、痛みがあり、全身に鮮紅色、小丘疹が出現する。消退後に落屑や表皮剥離がある。	A群溶血性レンサ球菌	2～5日	抗菌薬内服後、24～48時間経過していること。	手洗い、うがいなどの励行
感染性胃腸炎	おう吐と下痢が特徴であり、ロタウイルスに罹患した時には便が白くなることもある。脱水症状に注意する。	ノロウイルス ロタウイルス アデノウイルス	1～3日	おう吐・下痢症状から回復した後、全身状態が良くなるまで。	手洗い、うがいなどの励行 予防接種(任意)ロタウイルス
RSウイルス感染症	発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難 乳児では、細気管支炎、肺炎を合併しやすい	RSウイルス	4～6日	全身状態が安定するまで。(1週間前後)	手洗い、うがいなどの励行
マイコプラズマ感染症	ゆっくりと始まるかぜ様症状で咳がひどいのが、特徴である。	肺炎マイコプラズマ	1～4週間	急性期が終わった後、症状が改善し、全身状態が良くなるまで。	手洗い、うがいなどの励行
手足口病	発熱、口腔・咽頭などに痛みを伴う水疱と手、足に米粒大の発疹・水疱がみられる。	コクサッキーウイルス エンテロウイルス	3～6日	全身状態が安定するまで。	手洗い、うがいなどの励行
ヘルパンギーナ	突然の発熱と咽頭痛、嚔下痛がある。口腔内に紅斑点の小丘疹、口内疹がみられる。	コクサッキーウイルス	3～6日	全身状態が安定するまで。	手洗い、うがいなどの励行
伝染性紅斑	かぜ症状と顔面の特徴的な紅斑がある。四肢伸側にレース状または網目状紅斑が出現する。	ヒトパルボウイルス	4～21日	全身状態が安定するまで。	手洗い、うがいなどの励行
伝染性膿痂疹	水疱や膿疱が破れてびらん、痂皮を形成する。病巣は急激に拡大する。	黄色ブドウ球菌 A群溶血性レンサ球菌	2～10日	医師の指示に従う。	皮膚を清潔に保つ。
髄膜炎菌性髄膜炎	髄膜炎症状(頭痛、発熱、おう吐、痙攣、意識障害、髄膜刺激症状、乳児では大泉門膨隆)を示す。	髄膜炎菌	1～10日	医師の診断により、感染のおそれがないと認められるまで。	手洗い、うがいなどの励行。患者と接触した場合、診断を受けた24時間以内に抗菌薬の予防投与を受ける

※ 保育園において重要な感染症を抜粋しています。

生駒市こども課